2026年
7
10月22日

自ら気づき、考え、判断し、主体的に行動できる生徒が育つ学校

国見中だより

文責　校長　陣内美紀



読書の秋

「読み語り」始まっています。



国見中では毎週月曜日から水曜日まで朝読書を行っています。少しでも本に親しんでもらおうと先月から地域の方にお願いして「読み語り」に来ていただいています。すべてのクラスに１名ずつ、思い思いの本を持ってきていただき、プロ顔負けの迫力で読んでいただいています。

普段はなかなか本を読まない生徒も、この日はしっかり聴き、くすっと笑ったり真剣に考えたりしながらしっかりと聴いています。

たかが絵本と侮ることなかれ。子ども向けとは言えない深い内容の絵本もたくさんあります。「読み語り」によって、今まで知らなかった新たな世界が広がること間違いありません。

生徒主体の図書室づくり

昼休みの図書室が
①うるさい・走り回る
②学年のルールを無視
③注意しても反論して騒ぎ続ける
という問題が続き、
学習文化委員長を中心に生徒会の役員、学習文化委員で話しあいを重ねました。
貴重な昼休みを使って毎日、話し合うとともに学級での討議を行いました。みんなが気持ちよく図書室を使ってもらうためにはどうしたらよいか「自分たちで自分たちの学校を創っていく」姿が見られました。

その結果、図書室のルールを自分たちで見直しました。

図書室利用のルール

1　いつでもだれでも利用できる。
静かに過ごすことがルールです。
絶対に話さない！
守れない場合は、退室してもらいます
2　図書室の入り口で、氏名を記入
3年生の学習文化委員・部員が図書室の入り口で受付を行います。
自分で学年、クラス、番号、氏名を記入して入室してください



そのおかげで、今は安心して落ち着いて読書ができる環境になっています。

またひとつ、国見中の新たな伝統が創られたのではないかと実感しています。

本の寄贈にご協力を





国見中学校の図書室は、図書の岩永先生のおかげで、生徒が手に取りやすく、選びやすいように整理されたり、レイアウトやディスプレイも工夫されていたりと、図書室に来たくなるような明るい雰囲気になっています。しかし、唯一の課題は、学校が所蔵するべき本の数が圧倒的に少ないことです。昨年度は職員に呼びかけて家にある本を寄贈してもらいましたが、まだまだ不足しています。もし、ご家庭に中学生に読んでほしい、もしくは興味をもちそうな本で、もう読まない本をお持ちでしたら、寄贈していただけるとありがたいです。1冊でもよいので、お子様を通じていただけると助かります。